



日本大学  
国際関係学部

# 校友会々報

第 33 号

静岡県三島市文教町 2-31-145  
日本大学国際関係学部  
校 友 会

## 平成十四年度 常任幹事会・幹事会開催

### ◎ 常任幹事会

平成十四年七月十二日(金)十七時三十分から、国際関係学部八号館二階において開催された。

柴田正会長挨拶のあと、事務局から、幹事会の議事等について説明があり、各項目ごと詳細にわたり審議された。

### ◎ 幹事会

平成十四年七月十二日(金)十八時三十分から、常任幹事会に引き続いて開催された。弓場重明幹事の司会で進行され、柴田正会長挨拶の後、議長団・書記が選出された。

議長には土屋貞明常任幹事、書記には渡辺孝哉幹事がそれぞれ選出され、次の議事が審議された。

- 一、平成十三年度事業報告
- 一、平成十三年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成十四年度事業計画(案)
- 一、平成十四年度予算(案)
- 一、本部校友会委員推薦の件
- 一、総会の件
- 一、各科活動状況報告
- 一、その他

田中由雄幹事長から、平成十三年度事業報告がなされ、統い

て平成十三年度決算報告が、野田正人常任幹事会計担当から報告、また、監査報告を会計監査報告があり、それぞれ承認された。

続いて平成十四年度事業計画(案)及び平成十四年度予算(案)について審議され、それぞれ承認された。

※本部校友会委員推薦の件について柴田正会長から本年度本部校友会に副会長の宮下公雄氏幹事長、田中由雄氏の2名を常任委員に顧問の平井千枝氏、副会長の山崎光義氏、幹事の中濱卓弥氏の3名を委員として推薦した。以上5名の委員の方々の本部への年会費は部会加盟と同様に部会会計から支払いたいとの提案があり承認された。

また、校友会本部への正会員加入の促進を計るため同期の皆様への働きかけをお願いしたい。

その他各期より幹事の推薦があれば、十月二十日までに事務局に連絡をして下さいとの旨の報告があった。

総会の件については、例年のとおり十一月三日(日)十六時からの開催が承認された。

# 「希望の森」にさ迷う歓び



国際関係学部長

佐藤 三武朗

人生には出会いがあります。出会いの素晴らしさは人生の素晴らしさである、と私は考えています。出会いは、人それぞれによつて異なります。とても神秘的で、ドラマチックです。

三島キャンパスに学ばれた同窓生には、それぞれに貴重な出会いがあると思います。時間があれば、同窓生の一人ひとりからお話を伺いたいほどです。私も一生を決定づけるほど大きな出会いがあります。私は青春の一時期を三島キャンパスで過ごしました。

30数年の年月を経過して、色あせることなく輝きを放つているのは、実は「希望の森」との出会いです。人との出会いは感動的ですが、自然との出会いもまた山のごとくどっしりとして感動的です。

青春はあふれんばかりの情念に支配されています。だからこそ

そ、自戒の念を込め、心の静寂を求めた学園生活が必要になります。

皆さんも一度は「希望の森」をさ迷った思い出があることでしょう。「希望」という名の魅力に誘われて、私もさ迷った日のことがよみがえって来ます。

「希望の森」は青春の血潮に身も心も焦がし、良心の呵責にさいなまれた頭を冷やすのに最適な場所でした。

希望は夢に通じます。夢を見るのは青年の特権でもあります。三島キャンパスに学ばれた校友の皆さんは、かつてどんな青春時代を送ったのでしょうか。

この素晴らしい三島キャンパ

スとの出会いは、私たち校友にとって誇るべきことです。こんなに素晴らしい景観に恵まれたキャンパスが他にあるでしょうか。富士山、箱根連山、天城山が一望できます。歴史と文化の

薰りがする三島は、伊豆への玄関口です。

今も、私は「希望の森」を尋ねます。過去を顧みるのではなく、未来に希望を見るためです。

文字通りに、希望は夢と一緒にあります。夢の実現に向って、私たちは歩み続ける必要があります。

十年前と比較して、日本の昨今は落日の感があります。失われた十年をどう取り戻すかです。希望を持つべきです。夢を抱くべきです。

校友の皆さん。青春をわかし

た三島キャンパスを訪れ、在りし日の自己を発見して見ませんか。希望に満ち、夢を追い求めた青春の日々へ戻ることは、過

去へ返ることではなく、未来に向うことです。

校友の皆さんのお待ち

三島キャンパスも21世紀の少子高齢化に向かつて、国際化・学際化や情報化など、大学を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

18歳人口の減少は、既に皆様方もご存じのとおりであります

が、2009年には、「大学全入時代」が到来すると予測されております。

この様な大学の「冬の時代」を、如何に乗り切るか、本学部



# 国際関係学部校友会との絆



国際関係学部事務局長

原山 清

国際関係学部校友の皆様方に

は、大学の「サバイバル」をかけて学部改革に取り組んでいるのが現状であります。

国際関係学部の教育理念は、とお慶び申し上げます。国際関係学部校友会が新たな組織の基に発足し、本年1月26日(土)

には、多数の校友の皆様方にご出席いただき「国際関係学部校友会本部加盟祝賀会」が盛大に挙行され、皆様方へのお披露目も無事終了することができます。

佐藤三武朗学部長が日頃提唱さ

れております世界各国で活躍で

きます。

平成14年度には、国際交流学科・国際ビジネス情報学科の新設2学科が完成年度を迎え、平成15年度から既設の国際関係学

科・国際文化学科の2学科を合

わせて4学科体制となります。

一方、昨年3月には最先端の情

報機器が完備された15号館が完

成し、施設設備の面でもIT

(情報通信技術)を駆使し、語

学力を身につけた、新しい時代

に対応できる学生の教育環境が整備されました。

海外大学との教育・研究の交流と連携の促進ですが、国際関係学部独自の海外学術交

流提携校として、アメリカ、フ

ランス、ドイツ、スペイン、

オーストラリア、ニュージーラ

ンド、中国、韓国、8か国9大

学と教員の交換及び学生の留学

活動など積極的に交流を行つて

おります。

また、地域との共存としまし

て、昨年大学院に特別講座「伊豆学」「地域産業振興研究」を開設致しました。

この「伊豆学」は、伊豆地域を学問分野から自然・歴史・文化等専門的に研究する講座であ

り、もう一つの、「地域産業振興研究」は、地域の産業・経済・観光等をテーマに、静岡県東部地域の企業の活性化を目的とした講座であります。

いづれの講座も、国際関係学部の特色を生かした講座であり、多くの市民が学んでおります。

更に、日本大学の学部が併設する初めての中学校の認可申請も、静岡県の指導に基づいて準備が順調に進行しており、平成15年度開設が認可される段階にきております。

長年の念願でありました、三島キャンパス“中・高・大一貫教育”的実現に向け、教職員が一丸となって鋭意努力致しております。

三島キャンパスの今後の充実発展は、校友の皆様方の暖かいご支援がなければなし得ないものと痛感しております。

私も昨年6月に国際関係学部に異動着任して以来、校友の皆

様方の絆の強さを実感しております。これは、三島という緑が豊かで風光明媚な環境に培われたものであると思います。この絆は、何物にも変えがたい財産であります。

新たに組織された国際関係学部校友会の前身であります三島同窓会や今後の校友会運営の中心になります国際関係学部同窓会並びに短期大学部の各同窓会の皆様方の大学へのご尽力に対しまして、お礼を申し上げる次第であります。

今後大学といたしましても、校友の皆様方と十分に連携を図り、三島キャンパスを校友の皆様方とともに、より一層充実発展に向けて努力していかねばならないと思料しております。

最後に、校友の皆様方の大学に対する力強いご支援と益々の活躍をご祈念申し上げ、国際

関係学部校友会々報発行にあたりご挨拶とさせていただきます。

会員の皆様方には、お元気で御活躍のことと存じます。日頃の校友会活動への御尽力心より御礼申し上げます。

日本大学校友会に加盟し、早一年。名称も三島同窓会から国際関係学部校友会に変わり、他学部の皆様との交流も進んでおります。

沢山の人達と出会う国際化が進む中で、大切なものの一つに「個人の資質」があります。相手の習慣、考え方を理解し、こちらの意志を適確に伝えるという難しさはありますが、怯むことなく堂々と対応できる度胸が求められます。学生時代、社会人における自分の努力に加え、それぞれの場面で出会った人達から教えられ学んだことを基本に、より一層の向上を目指す。

参加は新しい扉を開くキッカケ

になります。

何かと多忙な毎日ではあります

が、「俺」「お前」の時代に戻り

とも、どのような人に会おうとも遙るがないものを身につけることが必要だと思います。昔と違います。

## 未 知 へ の 扉



国際関係学部校友会会長

柴田 正



国際関係学部同窓会会長

宮下 公雄

現在は居ながらにして情報が得られます。

校友の皆様間での活

発な交流をして頂きたいと思

ます。これと共に忘れてはいけ

ないことが「健康」です。何を

するにも健康でなければ、何處

にも出かけられなくなります。

それぞれの年代に合った健康法

を実施し、知識と共にいつま

でも活躍できる資本を持ちたいも

のです。

レイモンド・チャンドラーの

ハードボイルド小説の中に、「男

は強くなければ生きていけない。

男は優しくなければ生きていく

資格はない。」というセリフがあ

ります。ハードな仕事だけでな

く自分の時間をいかに上手く活

かすかが、これからは不可決に

なってきます。

地域で催されるセミナーへの

頂点はないけれども一つ一つの

積み重ねが自分の自信にとなつ

ていく。どのような場に立つても

も、どのような人に会おうとも遙るがないものを身につけるこ

とが必要だと思います。昔と違います。

## 卒業から早20年



国際関係学部同窓会会長

宮下 公雄

同窓会会員の皆様には、ます

ますご清栄の事お喜び申し上げ

ます。日頃から同窓会活動に暖

かい、ご支援をいただきまして

誠にありがとうございます。

昨年度、佐藤学部長並びに、

国際同窓会を支援してください

ます多くの諸先輩方のご支援を

頂き校友会活動をスタートする

事ができました。特に、今回校

友会会长職を、お受けいただき

ました柴田三島同窓会会長には

感謝の念で絶えません。私達が

本来国際関係学部卒業の1期生

であります。柴田三島同窓会会長には

感謝の念で絶えません。私達が

本学卒業の1期生であります。柴田

様は、我々国際同窓会会員の良

き兄貴分であり、今回校友会会

長の大役を難なくこなす姿には

感激させられております。本当に

ありがとうございます。

さて、私自身大学卒業後、早

くも20年の歳月がたとうとして

います。我々同級生も、そろそろ

周りが何をしているか気にな

る年に差し掛かっているのでは  
ないでしょうか？勿論私もです。

当時の大学時代を振り返りますと、国交を回復して10年たたない中国に一ヶ月も、海外研修に送りこんでくださった、国際

関係学部発足当時の諸先生方の自由を創造する発想には感謝で絶えません。将に、学部創設には、プロジェクトXの世界であつたのではないでしようか？私は、中国語専攻でありながら、お恥ずかし話しながら、語学は苦手でした。中国語専攻で、先生方には、非常に迷惑をおかけしました口です。それでも、あの当時を振り返りますと、中国研修をした体験が、現在の私の仕事にも、大きく役立っています。

現在、私はあのころ学ばせて頂いた自由な発想を元に、インターネットを駆使した酒類ビジネスに従事しております。

最近中国紹興県に、紹興酒の研修に行く機会を得ました。あの当時、見せていただいた未完の大國中国は、世界の中心へと、大きく変貌を遂げ、20年前では誰もが創造できない、日本のお手本となる国へと発展しています。何より歓心したのは、私達には、到底真似のできない真摯な姿で出迎えてくださる若い中

国人スタッフの温かい姿がありました。日本経済が困窮している間に、メンタルな部分でも遅れをとりつつある事を痛感させられました。

国際関係に携わるビジネスも、国際関係学部発足当時の、語学を話せる第一歩から、より専門化した専門知識を持ち、どれだけパートナーとして相手の有益性追及でできるビジネスパートナーとしての安定した信頼性へと変貌しております。

校友会は、私たち卒業生が築いた個々のノウハウを、一同に紹介する場でもあります。どうか皆様時間がありましたら校友会にお出かけくださいませ。そして、後輩のために汗を搔こうではありませんか、そこには、自らも明日につながるヒントが在るかも知れません。幹事一同心よりお待ち申し上げております。

## 校友会長賞授賞者



国際関係学科四年  
清水 真由美

「三島は第2のふるさとです」

長い人生の中でたつた4年間しか住んでいないのに、今はそういう気持ちでいっぱいです。それはきっと、私が三島での多くの出会いによって大きく成長させてもらつたからだと思います。

私は3年間、富桜祭実行委員会に所属していました。実行委員会は、ほぼ1年間かけて富桜祭を作り上げるという地道な活動でしたが、とても充実したものでした。普段何気なく大学に通っていると、他の学生が一体どんなことに熱中しているのか、どんな事に興味を持っているのかがわかりません。富桜祭は、他の学生のことを知る機会であり、自分のことをアピールする機会でもあるわけです。さらに、地域の皆さんに学生のことを知つていただけます。さるに、地域の架け橋になるお手伝いが少し

でもできることは私にとつて大きな喜びでした。

わたしが活動の中で強く感じたのは、「すべては人と人とのつながりだ」ということです。一人

の力は小さくとも、みんなが力を合わせれば大きな力になる。頭で考えれば単純で簡単なことですが、実際はうまくいかないことも多くあり、何度も何度も話し合つたこともあります。そしてそのたびに、人と人との関係の大切さを痛感しました。

でもそのかわり、力をあわせて何かを成し遂げたときの感動は何にも代えがたいものでした。そんな私ですが、大学に入りたての頃は人のことを考えず自分のことしか考えない自分でした。そんな自分を変えてくれたのはまぎれもなく実行委員会でした。そんな自分を変えてくれたのはまぎれもなく実行委員会で出会つた仲間でした。ともに笑い、ともに泣き、ともに励ましあり、感動を共有した仲間がいたからこそ、3年間の活動を通してさまざまなことが学べて、成長できたのだと確信しています。

また、大学で学ぶ機会をくださった両親にも感謝したいと思います。成長したと言いましたが、それは大学へ入学する時の目標であります。勉学に励むだけでなく、頭・体・心を使つた「勉強」をすべきであると思つています。「勉強」とは、何も机に向かうだけじゃありませんからです。仲間を多く持つことで、人間の成長はとても早くなり、大きくなると私は考えています。

国際文化学科三年  
川下 知恵



私は、大学へ入学し多くの仲間に出会えたことで、様々な面から成長できたと思っています。大学には多くの学生が在学しているわけですが、勿論すべての学生と知り合うことはあります。何百といいる学生の中から、得た仲間は私の宝です。

成長したと言いましたが、それは大学へ入学する時の目標であります。勉学に励むだけでなく、頭・体・心を使つた「勉強」をすべきであると思つています。「勉強」とは、何も机に向かうだけじゃありませんからです。仲間を多く持つことで、人間の成長はとても早くなり、大きくなると私は考えています。その為にも、学生会C.S.Aに入ること是最適な方法でもあります。学生会C.S.Aを通して得た仲間は、私の頑張りの源となるモットーを教えてくれました。それは、「成長できるからこそ、頑張る」です。そんなに、辛くて

も、苦しくても人間はこんな時ほど成長ができるのです。私は実際に2年生で前代未聞の委員長をやらせて頂きましたが、この年は私の中で様々な考えが変化し成長を遂げることができた年でもありました。それも、仲間が推薦し未熟な私についてきてくれたからだと思っています。

ありがとうございます。

この機会を得ることができたのも、両親がいてくれたからで



國際交流學科四年

長谷川  
郁子

「外国を知らないものは自己を知らない。」国際関係を学ぶ上で格言となつてゐるこの言葉は他人と自分との関係においても言えると思います。

この機会を得ることができたのも、両親がいてくれたからです。

学生会CSAの活動を、又私  
の思いを誰よりも側にいて理解  
し支えてくれていたこと、本当に  
に感謝しています。学生生活も  
折り返しの時期になつてきました。  
一度と訪れる事のないこの  
大学生活を、今まで以上に有意義  
にし、自分らしく過ごすことが  
できたらよいと思つています。  
これからも、この大学で仲間  
と共に多くの思い出を作つてい  
きたいです。

私は今まで、「他人と自分との違い」を「自分とは違うもの」としてしか捉える事が出来ませんでした。「違うもの」それ以上でせんでもありました。しかし大学に入り対して考へるということをしませんでした。学生会CSAの活動や三島市の市民活動に参加して多くの人と一緒に行動する機会を得る中で、様々な人に出会いそういった「違ひ」は「個性」であり、尊重すべきものであると考えられるようになりました。またそう考えると他人を理解しようと努力し、自分との違いを突き詰めていくうちに自分自身をも知ることができました。

意見や物事の考え方というの  
になりました。また、そう考え  
られるようになつてからはもつ  
他人を理解しようと努力し、  
自分との違いを突き詰めていく  
うちに自分自身をも知ることが  
きました。



国際ビジネス情報学科四年

松下  
夏葉

四季の移ろいを感じることができる緑豊かなキャンパスに私が通いだしてから、間もなく4年が経とうとしています。私たちを静かに見守るキャンパスは

活に生きせるよう、努力していきたいと思います。

これまで多くの学生を見守つて  
きたことでしよう。私が過ごし  
た時間もその歴史のほんの一部  
でしかありませんが、誰にも真  
似できない自分らしい大学生活  
を送ることができました。

キャンパス内の自治組織であ  
る学生会C.S.Aに所属した3年  
間、本当に色々なことがあります  
した。先輩方から多くのことを  
学び、仲間と一緒に活動していく  
ことで自分自身の視野を大き  
く広げることが出来たのではな

いかと思います。楽しい時もつらい時も、意見がぶつかり合つた時も、自分の一番近くにいたのは活動を共にしている仲間たち。その集団の中で、自分自身を客観的に見つめ、自分が信じる道を歩むことは容易ではありません



實業家

卷之三

生かせるよう、努力しています。

ます。これからも、信じる  
明日への勇気に変えて頑  
かしいきます。

場であつたと思う。  
子生活を4年間過ごしてき  
活・アルバイト・勉強等た  
んの時間を費いやしました  
多くの人達との出会い  
り、4年という長いようで  
時間の中、多くの事を学ぶ

国際ビジネス情報学科四年  
後藤暢宏

情報学科四年  
後藤暢宏

大学生活は、様々な意味で「学び」の場であったと思う。

大学生生活を4年間過ごしてきて、部活アルバイト・勉強等たくさん時間を使いやしました。そして、多くの人達との出会いがあり、4年という長いようで

ことができたと思う。

「文化会執行部」という公認団体に入ることになり、1年目の大学生活は部活・勉強と時間に追われる日々となってしまった。

国際ビジネス情報学科四年



竹腰真裕子

末の結果、成功という2文字にならなくとも自分の中に残る過程が自分を大きく変化させた。

2・3年目においても、自分に対する「成長」とより高い所への「追求」に終わりはなかった。忙しさと戦う大学生活の中においてある教養に言つて、

「辛く・苦しい時こそ自分に与えられたチャンスだと思いなさい」という言葉が今でも心に残っています。その言葉に可能性を引き出された感じがした。

どんなに辛いことも耐えられ、  
なにより達成感・充実感がある。  
しかし、大学生活の中、この言

葉以外にも出会った人達・仲間  
達に支えられて来たのは言うま  
でもない。

大学生生活は、自分の無限とも  
いえる可能性を引き出すことが  
でき、様々な成長を促す時間と  
なると、私は思う。

だ。

また私は、二つの団体で様々な事に携わってきたお陰で、直接それらとは関係ないのだが、自分が本当に好きな事——人生を

国際ビジネス情報学科四年



竹林

けることが出来た。そして、好きな事、つまり目的意識がはつきりしていたためか、就職先として、私にとつてはこの上ないほど魅力ある会社に出会うこと

三年前の冬に体育会報行部の一員となりそれからの約二年間無我夢中の内に過ぎて行つた。

くれる仲間達や、共に過ごす中で体育会執行部の誇りを教えて頂いた先輩方からの期待に答えられなかつた事への悔しさに他ならなかつた。

振り返ってみると、私の大学生活は実際に濃厚なものであつたと思う。今の自分はこの大学生活なしには在り得ない。

最初の一年間、先輩方の仕事に参加させて頂きつつ仕事を覚えるという日々の中でのペースで活動でき、体育会執行部に対する責任をあまり感じる事はなかった。只、複雑な仕事を見

ちろん人それぞれだ。私は幸い充実した日々を過ごし、やりたい事も見つけることが出来た。そう言い切ることが出来る事を嬉しく思う。そしてこれは私一人の力の賜物ではない。先輩後輩、友人といった周囲の人々との出会いがあつてこそもの

会執行部を牽引して行く役目を  
過ぎ、先輩方が引退され、体育  
事に成功させる先輩方を見て、  
自分達へ主導権がバトンタッチ  
された時にしっかりと後を継い  
で行けるかという漠然とした不  
安を持っていた。

りによつて、重く動かなくなつてしまつた足を前に進ませてくれるのは最終的に歴史や伝統ではなく、自分の本当に身近な周囲の人々の誇りを守らなければならぬという想いから滲みでてくるという事を認識する事が出来た。

だ。皆と、私にこの四年間を与えてくれた家族に心から感謝したい。

会執行部を牽引して行く役目を担う事となつた時に事態は一変した。今まで仕事を失敗した時に恐れるべきは、自らの不甲斐無さに直面する事であると考え

自分のミスにより一緒に仕事をしている仲間達の仕事を全て台

何をするにしても、「自分の為」という目的のみだけでは、いざという時に發揮できる力に限りがある。体育会執行部に入らずに自分の時間のみを過ごしていたら、それに気付く事は確実に無かつた。体育会執行部の一員であつた事に心から感謝したい。

## 校友会だより

況を報告しあつてゐる光景が至るところで見られました。

(文責 金枝)

### 国際関係学部同窓会

平成十三年十一月十七日、第

十八回国際関係学部同窓会総会・懇親会が東京都千代田区飯田橋にあるホテルグランドパレスにて開催されました。一昨年の総会から三島と東京で交互に開催することになつて以来、二度目の東京会場となりましたが、約六十名の卒業生、来賓の先生方が集い、和やかな会となりました。

総会では、会長挨拶の後、会務報告、会計報告が行われ、校友会の発足に関する説明と同窓会名簿の発行について審議されました。

また、写真撮影に続いて行われた親睦会では、国際関係学部長佐藤三武朗先生の挨拶、山口裕久前事務局長による乾杯の後、懇談に移りました。

当日は、来賓の先生方にキャンパスライフや授業についての懐かしい思い出話をして頂くとともに、参加した同窓生の近況報告など、始終和やかな雰囲気で会は進行し、会員同士が久々の再会を分かち合い、互いの近

### 桜栄会

桜栄会では、毎年会報「桜栄」

を発行しております。今年度は、三七号を平成十四年三月二十日に発行し、約八、九八九名の全会員に郵送いたしました。当番期の方々を中心にして成し、特色ある会報をお届けできることと思ひます。

平成一四年六月二日(日)には、

第四回総会・懇親会が日本大学国際関係学部で行われ、総会で年間行事報告、会計報告などをを行いました。また、アイリッシュハープ奏者の永山友美子さんをお迎えし、大変華やかな演奏会が催されました。引き続き行われた懇親会は、二期・一期・二二期・三期の当番期を含む約四〇名の会員、佐藤三武朗学部長をはじめ恩師の先生方や、三島同窓会からの来賓をお迎えして、なごやかな会となりました。

(文責 大塚)



国際関係学部同窓会



桜 栄 会

## 日本大学国際関係学部校友会組織表

### 国際関係学部同窓会

### 国際関係学部校友会 (旧三島同窓会)

短期大学部  
桜文会(国文・英文)  
商科同窓会(1・2部)  
桜栄会(家政・食栄・生活)  
工科同窓会(建築・機械)

三島予科  
三島教養部  
文理学部(三島)

# 平成 13 年度 事 業 報 告

- 1 国際関係学部校友会長賞授与  
 平成 13 年度日本大学三島キャンパス在学生から、次の者が推薦された。  
 ・校友会長賞(副賞・記念品)は、国際関係学部 3 名、短期大学部 1 名に贈られ平成 14 年 3 月 25 日の卒業式当日、帝国ホテルにおいて授与式が行われた。  
 ・校友会長賞(副賞・奨学金)は、国際関係学部 7 名に贈られ、4 月 4 日開講式当日授与式が行われた。
- ①校友会長賞(副賞記念品)  
 園部 真子(国際関係学科 4 年) 渡辺 梓(国際文化学科 4 年) 大津留真紀(国際関係学科 4 年)  
 平野文星(商経学科 2 年)
- ②校友会長賞(副賞奨学金)  
 長谷川郁子(国際交流学科 3 年) 松下 夏葉(国際情報学科 3 年) 竹腰真裕子(国際情報学科 3 年)  
 後藤 暢宏(国際情報学科 3 年) 竹村 直(国際情報学科 3 年) 清水真由美(国際関係学科 3 年)  
 川下 知恵(国際文化学科 2 年)
- 1 学園歌集発行  
 2,000 部を発行し、平成 13 年 4 月国際関係学部・短期大学部(三島)各学科の新入生全員に対して入学祝いとして渡した。
- 1 会報発行  
 会報 32 号を平成 13 年 11 月 3 日付け 10 頁 3,000 部発行した。
- 1 各科同窓会等補助  
 国際関係学部同窓会・桜栄会及び大学の体育会に補助した。
- 1 常任幹事会  
 平成 13 年 5 月 30 日(木)18 時から、国際関係学部 8 号館 2 階で開催した。  
 平成 13 年 7 月 19 日(木)17 時 30 分から、国際関係学部 8 号館 2 階で開催した。
- 1 幹事会  
 平成 13 年 7 月 19 日(木)18 時 30 分から、国際関係学部 8 号館 2 階で開催した。
- 1 総会並びに懇親会  
 平成 13 年 11 月 3 日(金)16 時から、国際関係学部記念館で開催した。
- 1 記念式典・祝賀会  
 平成 14 年 1 月 26 日(土)15 時から、本部校友会加盟式典を国際関係学部 8 号館 2 階で開催した。
- 1 箱根駅伝応援  
 平成 14 年 1 月 2 日(木)往路ゴール地点並びに平成 14 年 1 月 3 日(木)復路スタート地点及び大手町ゴール附近で応援した。  
 国際関係学部体育会ダンス部が応援に花を添えた。

## 平成 13 年度 収 支 決 算 書

(平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)

(単位：円)

支 出 の 部			収 入 の 部		
項 目	予 算 額	決 算 額	項 目	予 算 額	決 算 額
獎 學 費	830,000	827,300	差 額	2,700	
學 園 歌 集 発 行 費	210,000	207,900	△ 2,100		
同 窓 会 報 発 行 費	190,000	189,000	1,000		
各 科 同 窓 会 等 補 助	200,000	60,000	140,000		
学 生 団 体 補 助	400,000	200,000	200,000		
総 会 並 び に 懇 親 会 費	360,000	1,944,601	△ 1,584,601		
議 会 合 通 信 費	200,000	359,200	△ 159,200		
事 務 搬 費	80,000	70,560	9,440		
雜 費	70,000	455,817	△ 385,817		
本 部 校 友 会 会 費	200,000	272,250	△ 72,250		
予 備 費	0	300,000	△ 300,000		
計	2,940,000	4,886,628	△ 1,946,628		
基 金 繼 入 額	1,000,000	1,500,000	△ 500,000		
次 年 度 繼 越 金	3,360,000	3,035,968	324,032		
(前 受 金)	(3,360,000)	(3,015,000)	(345,000)		
(繰 越 金)	(0)	(20,968)	(△ 20,968)		
支 出 の 部 合 計	7,300,000	9,422,596	△ 2,122,596		
基 金 繼 出 額				7,190,190	7,212,786
前 年 度 繼 越 金				0	2,100,000
				109,810	△ 2,100,000
					0
取 入 の 部 合 計				7,300,000	9,422,596
					△ 2,122,596

## 貸 借 対 照 表

(平成 14 年 3 月 31 日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 期 預 金	34,135,968	基 金	31,100,000
定 期 預 金	0	(前 年 度 繼 越 額)	(31,700,000)
		(本 年 度 繼 入 額)	(△ 600,000)
		次 年 度 繼 越 金	3,035,968
		(前 受 金)	(3,015,000)
		(繰 越 金)	(20,968)
合 計	34,135,968	合 計	34,135,968

## 基 金 の 内 訳

(単位：円)

項 目	前 年 度 繼 越 額	本 年 度 繼 入 額	合 計
同 窓 会 事 業 基 金	23,000,000	1,500,000	24,500,000
国際関係学部校友会加盟基金	8,700,000	△ 2,100,000	6,600,000
計	31,700,000	△ 600,000	31,100,000

平成 13 年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成 14 年 月 日

会計監査 染 谷 德 昭 守

## 平成 14 年度 事 業 計 画(案)

- 1 国際関係学部校友会長賞授与 (副賞:記念品もしくは奨学金)  
 日本大学国際関係学部及び短期大学部を平成 15 年 3 月卒業・4 月に進学の予定の者を対象とする。  
 校友会長賞並びに記念品 国際関係学部 4 年卒業予定者 各学科 1 名  
 短期大学部 2 年卒業予定者 各学科 1 名  
 校友会長賞並びに奨学金 国際関係学部 各学科 2・3 年生 各学年 1 名  
 短期大学部 各学科 1 年生 各 1 名
- 1 学園歌集発行予定  
 2,000 部を発行し、平成 14 年 4 月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対して入学祝いとして渡す。
- 1 会報発行予定  
 会報 33 号(平成 14 年 11 月)発行 10 頁 3,000 部
- 1 各科同窓会等補助  
 (1)各科の名簿編集の推進及び各科同窓会行事に対する補助  
 (2)大学体育会・文化会に対する補助
- 1 常任幹事会  
 平成 14 年 7 月 12 日(金)17 時 30 分から、国際関係学部 8 号館 2 階において開催する。
- 1 幹事会  
 平成 14 年 7 月 12 日(金)18 時 30 分から、国際関係学部 8 号館 2 階において開催する。
- 1 総会並びに懇親会  
 平成 14 年 11 月 3 日(日)16 時から、国際関係学部記念館において開催する。
- 1 箱根駅伝応援  
 平成 15 年 1 月 3 日(金)復路スタート地点及び第 2 中継点近くで応援する。

## 平成 14 年度 収 支 決 算 書(案)

(平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日)

(単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差額
奨 学 費	830,000	830,000	0	会 費 収 入	3,924,000	3,699,000	225,000
学 園 歌 集 発 行 費	210,000	210,000	0	雑 収 入	84,032	131,190	△ 47,158
同 窓 会 報 発 行 費	190,000	190,000	0	前 受 金 収 入	1,056,000	3,360,000	△ 2,304,000
各 科 同 窓 会 等 補 助	200,000	200,000	0				
学 生 団 体 補 助	400,000	400,000	0				
総会並びに懇親会費	700,000	360,000	340,000				
会 議 会 合 費	200,000	200,000	0				
通 信 運 搬 費	100,000	80,000	20,000				
事 務 費	350,000	70,000	280,000				
雑 費	200,000	200,000	0				
本 部 校 友 会 会 費	470,000	0	470,000				
予 備 費	500,000	200,000	300,000				
計	4,350,000	2,940,000	1,410,000	計	5,064,032	7,190,190	△ 2,126,158
基 金 繰 入 額	0	1,000,000	△ 1,000,000	基 金 繰 出 額	470,000	0	470,000
次 年 度 繰 入 金	1,220,000	3,360,000	△ 2,140,000	前 年 度 繰 越 金	35,968	109,810	△ 73,842
(前受金)	(1,056,000)	(3,360,000)	(△ 2,304,000)				
(繰越金)	(164,000)	(0)	(164,000)				
支 出 の 部 合 計	5,570,000	7,300,000	△ 1,730,000	収 入 の 部 合 計	5,570,000	7,300,000	△ 1,730,000

幹	事 森 伸夫(30・31)	幹	事 山崎 幸恵(8・9)	幹	事 赤池 哲也(42・43)
幹	事 道見 俊廣(30・31)	幹	事 渡辺 孝哉(9・10)	幹	事 津田 正克(50・51)
幹	事 小野 武(30・31)	幹	事 佐野 隆子(9・10)	幹	事 後藤 善夫(52・53)
幹	事 宮尾 昌介(30・31)	幹	事 成島 敦子(9・10)	幹	事 田伏 正和(元・2)
幹	事 菅 修(30・31)	幹	事 園部 真子(10・11)	幹	事 名雪しげみ(元・2)
幹	事 馬場 妙子(30・31)	幹	事 萩野谷 肇(41・42)	幹	事 菅江知恵美(2・3)
幹	事 屋鋪 公平(30・31)	幹	事 上田 定義(41・42)	幹	事 川原 浩孝(3・4)
幹	事 堀 幸男(30・31)	幹	事 加藤 久貴(46・47)	幹	事 藤澤 博隆(3・4)
幹	事 根岸 元宏(31・32)	幹	事 秋山 稔明(46・47)	幹	事 小野 和彦(3・4)
幹	事 加藤 三洲(31・32)	幹	事 前田 正丈(47・48)	幹	事 今川 高宏(4・5)
幹	事 渡部 浩司(31・32)	幹	事 野田 栄(47・48)	幹	事 町野 智彦(5・6)
幹	事 大村日出雄(32)	幹	事 辻本真由美(51・52)	幹	事 池田 昌史(8・9)
幹	事 甲田 知由(33)	幹	事 露木みどり(59・60)	幹	事 山瀬 匠(8・9)
幹	事 杉本 直志(33)	幹	事 長澤 裕子(59・60)	幹	事 松岡 功之(9・10)
幹	事 吉野 洋一(35)	幹	事 南 まり子(3・4)	幹	事 遠藤日出夫(37)
幹	事 鈴木 肇(35)	幹	事 小池 恭子(4・5)	幹	事 渡辺 博夫(37)
幹	事 御供 政紀(35・36)	幹	事 白川 美保(5・6)	幹	事 江川 洋(42)
幹	事 小澤 文郎(36)	幹	事 小柴 慶子(6・7)	幹	事 藤幡 俊量(46)
幹	事 大西 良雄(37)	幹	事 平野 文星(12・13)	幹	事 工藤 典子(1 ~ 4)
幹	事 小川 武司(37)	幹	事 高橋 美鶴(41・42)	幹	事 長谷川哲夫(1 ~ 4)
幹	事 多田清太郎(37)	幹	事 石黒栄美子(42・43)	幹	事 村上東洋男(1 ~ 4)
幹	事 坂口 正剛(37)	幹	事 菊地 千尋(43・44)	幹	事 南 敦子(2 ~ 5)
幹	事 小石川宣照(37)	幹	事 遠藤 晶子(44・45)	幹	事 門脇 正朋(2 ~ 5)
幹	事 谷崎 邦昭(38)	幹	事 神戸 紗代(47・48)	幹	事 小塚 達郎(3 ~ 6)
幹	事 勝亦 誠(38)	幹	事 小澤里佳子(57・58)	幹	事 金枝 あや(3 ~ 6)
幹	事 栗山 康雄(39)	幹	事 山川 敦子(59・60)	幹	事 鮎澤 珠美(3 ~ 6)
幹	事 杉田 朋昭(39)	幹	事 野上 香(1・2)	幹	事 紅林美智子(3 ~ 7)
幹	事 両角 勇(42)	幹	事 羽田香世子(2・3)	幹	事 杉山 文予(5 ~ 8)
幹	事 濱田 義之(45)	幹	事 野室香世子(2・3)	幹	事 江島 照美(5 ~ 8)
幹	事 高藤 省三(49)	幹	事 望月ゆかり(4・5)	幹	事 武藤 千鶴(5 ~ 8)
幹	事 滝本 博(53)	幹	事 小澤 知子(5・6)	幹	事 鈴木 優子(5 ~ 8)
幹	事 岩崎 尚枝(41・42)	幹	事 原田 愛(6・7)	幹	事 室伏 寛美(5 ~ 8)
幹	事 小永井京子(43・44)	幹	事 佐藤 美幸(10・11)	幹	事 明石 浩一(5 ~ 8)
幹	事 平岩美知子(44・45)	幹	事 村山 景子(11・12)	幹	事 植松 信二(6 ~ 9)
幹	事 高橋真理子(44・45)	幹	事 宮下 正俊(39・40)	幹	事 大越久美子(7 ~ 10)
幹	事 石井千枝子(46・47)	幹	事 菅沼 弘(39・40)	幹	事 佐竹 篤(7 ~ 10)
幹	事 佐野 有美(52・53)	幹	事 吉田 力(44・45)	幹	事 井上 善史(8 ~ 11)
幹	事 勝亦 幾代(56・57)	幹	事 長倉 良幸(44・45)	幹	事 登ヶ谷祐人(8 ~ 11)
幹	事 林 忍(63・1)	幹	事 弓場 重明(44・45)	幹	事 金子 浩二(8 ~ 11)
幹	事 渡辺 陽子(1・2)	幹	事 早川 清文(45・46)	幹	事 早乙女桂子(8 ~ 11)
幹	事 高野 敦子(2・3)	幹	事 三枝 和彦(46・47)	幹	事 川合 貴子(9 ~ 12)
幹	事 小川 真弓(3・4)	幹	事 勝間田多住(47・48)	幹	事 井上 明子(9 ~ 12)
幹	事 片柳 容子(3・4)	幹	事 天野 寿一(48・49)	幹	事 徳田 瑞希(9 ~ 12)
幹	事 松本佳代子(5・6)	幹	事 垣村 光伸(53・54)	幹	事 渡辺 梢(10 ~ 13)
幹	事 古屋 美帆(6・7)	幹	事 中山 義昭(41・42)	幹	事 大津留真紀(10 ~ 13)
幹	事 小林 昌子(7・8)	幹	事 渡辺 清(42・43)		

# 平成 14 年度役員

任期 (H14.4.1 ~ H15.3.31)

顧問	西村 満男(21 ~ 23)	常任幹事 江本 博勝(46・47)	幹事 井上 忠彦(23 ~ 25)
顧問	西村美枝子(22 ~ 24)	常任幹事 沼上 博美(48・49)	幹事 細田 昭次(23 ~ 25)
顧問	中嶋 信行(23 ~ 25)	常任幹事 大島 裕二(52・53)	幹事 杉山 吉房(23 ~ 25)
顧問	奥田 吉郎(23 ~ 25)	常任幹事 斎藤 聰(54 ~ 57)	幹事 服部 房夫(23 ~ 25)
顧問	瀬川 一男(23 ~ 25)	常任幹事 木村貴美和(55 ~ 58)	幹事 浅海 武夫(23 ~ 25)
顧問	渡辺 勝一(26・27)	常任幹事 小松 徳弘(56 ~ 59)	幹事 芦澤 克治(24・25)
顧問	見上 勇逸(27・28)	常任幹事 稲葉 桂子(60・61)	幹事 石川 進(25・26)
顧問	鈴木 邦良(27・28)	常任幹事 久保 和之(63・元)	幹事 矢澤 知秋(25・26)
顧問	石川 貞夫(28・29)	常任幹事 廣岡 達郎(元 ~ 4)	幹事 長倉 祐作(25・26)
顧問	平井 千枝(34・35)	会計監査 染谷 徳昭(42・43)	幹事 宮崎 茂樹(25・26)
		会計監査 宮川 守(47・48)	幹事 辻 省二(26・27)
会長	柴田 正(41・42)		幹事 田村 実(26・27)
副会長	小椋 貞夫(28・29)	幹事 高田日出太郎(21)	幹事 浅原 好胤(26・27)
副会長	渡辺 洋子(35・36)	幹事 萩野新一郎(21)	幹事 高橋 英明(26・27)
副会長	高田 菊平(36)	幹事 馬場 康夫(21・22)	幹事 荒川 通(26・27)
副会長	山田 浩子(41・42)	幹事 清 好一(21 ~ 23)	幹事 岩永 勉(26・27)
副会長	小早川隆義(42・43)	幹事 石垣 義親(21 ~ 23)	幹事 塩田 浩(26・27)
副会長	山崎 光義(44・45)	幹事 小野 真一(21 ~ 23)	幹事 大井 徹也(26・27)
副会長	相田 信次(44・45)	幹事 澤 直和(21 ~ 23)	幹事 稲葉 昭(26・27)
副会長	宮下 公雄(54 ~ 57)	幹事 滝川 昇(22・23)	幹事 熊崎 文二(26・27)
幹事長	田中 由雄(42・43)	幹事 高橋 文吉(22・23)	幹事 輿水 啓一(26・27)
常任幹事 (庶務担当)	関野 幹雄(48・49)	幹事 堀井 佳勇(22・23)	幹事 廣田 均(26・27)
常任幹事 (庶務担当)	守野 敏也(55・56)	幹事 勝村 一男(22・23)	幹事 栗原 恒夫(26・27)
常任幹事 (会計担当)	野田 正人(62・63)	幹事 筏 元(22・23)	幹事 後藤 守雄(26・27)
常任幹事	金田 豊(23 ~ 25)	幹事 中島 知之(22・23)	幹事 黒滝 祐司(27・28)
常任幹事	白鳥 義仁(25・26)	幹事 溝口 梅男(22・23)	幹事 小林 義尚(27・28)
常任幹事	光信 優(26・27)	幹事 中濱 卓弥(22 ~ 24)	幹事 田村 栄一(27・28)
常任幹事	鈴木 義樹(28・29)	幹事 中塙 利雄(22 ~ 24)	幹事 関本 文彦(27・28)
常任幹事	角田 義廣(30・31)	幹事 北條 晃(22 ~ 24)	幹事 真部 喜孝(27・28)
常任幹事	中島 敏男(30・31)	幹事 長田 渉(22 ~ 24)	幹事 結城 勇一(27・28)
常任幹事	市川 紀子(36・37)	幹事 山内 茂(22 ~ 24)	幹事 土屋 仁(27・28)
常任幹事	久保田 勝(38・39)	幹事 川口 正信(22 ~ 24)	幹事 勝又 国信(27・28)
常任幹事	佐野 勝己(39・40)	幹事 小林 昭雄(22 ~ 24)	幹事 長沢 龍助(27・28)
常任幹事	土屋 忠得(40・41)	幹事 甲木 康夫(22 ~ 24)	幹事 佐々木凱男(27・28)
常任幹事	土屋 貞明(42・43)	幹事 木村 幸夫(23 ~ 25)	幹事 川崎 一成(27・28)
常任幹事	渡辺 忠昭(42・43)	幹事 小林 栄三(23 ~ 25)	幹事 丸山富美男(28)
常任幹事	林田 孝二(43)	幹事 勝俣 敏充(23 ~ 25)	幹事 坂詰 正衛(28・29)
常任幹事	岩崎 一雄(43・44)	幹事 森下 菊美(23 ~ 25)	幹事 望月 知林(28・29)
常任幹事	山口 良児(43・44)	幹事 播本 弘(23 ~ 25)	幹事 安東 安生(29・30)
常任幹事	鈴木 正八(44・45)	幹事 長谷川駿一(23 ~ 25)	幹事 田嶋 文義(29・30)
常任幹事	久保田博明(45・46)	幹事 徳増 清二(23 ~ 25)	幹事 寺崎 哲郎(29・30)
常任幹事	榎本 瞳美(45・46)	幹事 石野 進(23 ~ 25)	幹事 関 哲男(29・30)
常任幹事	西野 和衛(46・47)	幹事 石垣 恭弘(23 ~ 25)	幹事 林田 達郎(29・30)

第一条 本会は日本大学国際関係

学部校友会と称する。

第二条 本会は事務所を日本大学

国際関係学部におく。

第三条 本会は日本大学三島予科、

三島教養部、文理学部三島

校舎、短期大学部三島、国

際関係学部、大学院国際関

係研究科の出身者および在

校舎、短期大学部三島、国

際関係学部、大学院国際関

一、事務局

一、地方支部

以上の要求があつた場合は、臨時に招集しなければならない。

会長

副会長

幹事長

幹事

若干名

これに充てる。

会員は終身会費として金

学国際関係学部に納入する

こと。

参千円を入学時に、日本大

学に始まり翌年三月三十一

日に終る。

第二十五条 会員は終身会費として金

学に始まり翌年三月三十一

日に終る。

第二十六条 本会の会計年度は四月一

月に始まり翌年三月三十一

日に終る。

第二十七条 常任幹事会は本会の執行

機関として本会の実質的運

営にあたる。

幹事長

若干名

第九条 総会は本会運営上の諸事

項についての報告を受けこ

れを承認する。

第十一条 常任幹事会は本会の執行

機関として本会の実質的運

営にあたる。

幹事長

若干名

第十一条 総会は本会運営上の諸事

項についての報告を受けこ

れを承認する。

第十二条 常任幹事会は必要に応じ

て隨時会長がこれを招集す

る。

第十三条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第十四条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第十五条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第十六条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第十七条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第十八条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第十九条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第二十条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第二十一条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第二十二条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第二十三条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第二十四条 常任幹事会は必要に応じ

て随时会長がこれを招集す

る。

第二十五条 会員は終身会費として金

学に始まり翌年三月三十一

日に終る。

第二十六条 本会の会計年度は四月一

月に始まり翌年三月三十一

日に終る。

第二十七条 常任幹事会は本会の執行

機関として本会の実質的運

営にあたる。

幹事長

若干名

第二十八条 会員で会員としての名譽

を棄損する行為があつたと

きは幹事会の議を経て罰す

ることができる。

第二十九条 本会の運営に必要な細則

は別に定めることができる。

第三十条 本会則は昭和四十二年十

月三日からその効力を發

する。

第二十一条 本会は幹事会を構成し、

本会運営の諸事項の議決に

あたる。

第二十二条 本会は地方に支部を設け

査にあたる。

第二十三条 顧問・参与は幹事会の議

を経て会長が委嘱し本会運

営上の諮問にあたる。

第二十四条 本会は左の役員をおき、

各役員の任期は二年とし、

重任をさまたげない。

昭和五十二年十一月改正

昭和五十五年十一月改正

昭和五十八年七月改正

昭和六十二年十一月改正

昭和元年十一月改正

平成三年十一月改正

平成元年十一月改正

平成十三年五月改正

平成十三年五月改正